領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
生命の基本単位の細胞・組織と栄養摂取、呼吸、血液循環について理解できる。 人体の構造、生理機能、調節の仕組みを系統的に理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目:形からみた人体 ・人体の構造と区分 ・人体の部位と器官 2回目:人体とはどのようなものか ・人体の階層性 ・自然界における人類の位置 ・社会の中の人体 3回目:細胞の構造 ・細胞の構造 ・細胞内外間の物質の移動 浸透圧異常 ・細胞を構成する物質とエネルギーの生成 4回目:細胞膜の構造と機能、 イオンチャンネル型受容体と代謝調整型受容体 ・細胞の増殖と染色体、染色体の複製と有糸分裂 減数分裂 ・分化した細胞がつくる組織 5回目:機能からみた人体 ・動物機能と植物機能の器官系 ・体液とホメオスタシス 6回目:口・咽頭・食道の構造と機能 ・口の構造と機能　2)咽頭と食道の構造と機能 ・.腹部消化管の構造と機能 胃の構造、胃の機能、小腸の構造、小腸の機能 大腸の構造と機能 7回目:.脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ・膵臓、肝臓と胆嚢の構造、肝臓の機能 腹膜 ・腹膜と腸間膜、腹膜と内臓の位置関係 ・胃の周辺の間膜 8回目:呼吸器の構造 ・呼吸器の構成、上気道 下気道と肺　、胸膜・縦隔 9回目:呼吸 ・内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動 ・呼吸気量、ガス交換とガスの運搬 10回目:肺の循環と血流、呼吸運動の調節 ・呼吸器系の病態生理 11回目：血液の組成と機能、赤血球、白血球 血小板 血漿タンパク質と赤血球沈降速度 血液の凝固と線維素溶解 血液型（ABO式・Rh式・不規則抗体） 組織適合性抗原（HLA） 12回目:循環器系の構成 心臓の構造 ・心臓の位置と外形 ・心臓の4つの部屋と4つの弁 ・心臓壁 ・心臓の血管と神経 13回目：心臓の興奮とその伝導 ・心電図、心臓の収縮 末梢循環系の構造 ・血管の構造、肺循環の血管 ・体循環の動脈、体循環の静脈 14回目：血圧（動脈圧）、血液の循環 血圧・血流量の調節、微小循環 循環器系の病態生理 ・リンパとリンパ管 リンパ管の構造（リンパ管・胸管） リンパの循環 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座 人体の構造と機能１「解剖生理学」医学書院	図解ワンポイント 「生理学　人体の構造と機能」サイオ出版 解剖生理学ノート（第２版）
主とする授業形態	**評　価　方　法**
講義	小テスト、単位認定試験の「総合評価」とする

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅱ	1	30	1	1	院外講師 院内講師

科　目　目　標
身体の支持と運動をつかさどる骨格・筋の構造、生理機能、調節の仕組みを系統的に理解できる。 神経系と神経系に情報をもたらす感覚器系を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：骨格とはどのようなものか 人体の骨格、骨の形態と構造 骨の組織と組成、骨の発生と成長 骨の生理的な機能 2回目：骨の構造 関節、不動性の連結 骨格筋の構造、骨格筋の作用 骨格筋の神経支配 3回目：体幹の骨格と筋 脊柱、胸郭、背部の筋 胸部の筋、腹部の筋 4回目：上肢の骨格と筋 上肢帯の骨格、自由上肢の骨格 上肢帯の筋群、上腕の筋群 前腕の筋群、手の筋群 上肢の運動 5回目：下肢の骨格と筋 下肢帯と骨盤、自由下肢の骨格 下肢帯の筋群、大腿の筋群 下腿の筋、足の筋、下肢の運動 骨格筋の収縮機構、死後硬直 6回目：頭頸部の骨格と筋 神経頭蓋（脳頭蓋）、内臓頭蓋（顔面頭蓋） 頭部の筋、頸部の筋 骨格筋の収縮メカニズム 7回目：神経系の構造と機能 神経細胞と支持細胞 ニューロンでの興奮の伝導 シナプスでの興奮の伝導 神経系の構造 8回目：脊髄と脳 脊髄の構造と機能、脳の構造と機能 脳脊髄液の循環 9回目：脊髄神経と脳神経 脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能 10回目：脳の高次機能 脳波と睡眠、記憶 本能行動と情動行動、内臓調節機能 中枢神経系の障害 11回目：運動機能と下行伝導路 運動ニューロン 下行（遠心）伝導路 12回目：感覚機能と上行伝導路 感覚の種類、感覚の性質 体性感覚の受容器の種類 13回目：眼の構造と視覚 眼球の構造、眼球付属器、視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 14回目：　味覚と嗅覚 味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚 痛みの分類、疼痛の発生機序 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座 人体の構造と機能１「解剖生理学」医学書院	図解ワンポイント 「生理学　人体の構造と機能」サイオ出版 解剖生理学ノート（第２版）
主とする授業形態	**評　価　方　法**
講義	中間試験、単位認定試験の「総合評価」とする

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅲ	1	30	1	2	院外講師

科　目　目　標
身体内部変化、外部環境の変化に伴う調節機能の仕組みを系統的に理解できる。 体液の調節と尿の生成、生殖器系について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：自律神経による調節 自律神経の機能、自律神経の構 自律神経の神経伝達物質と受容体 2回目：内分泌系による調節 内分泌とホルモン ホルモンの化学構造と作用機序 3回目：全身の内分泌腺と内分泌細胞 視床下部-下垂体、甲状腺と副甲状腺 膵臓、副腎、性腺、 松果体（生体リズム①概日リズム②体内時計） 4回目：ホルモン分泌の調節 神経性調節 物質の血中濃度による自己調節 促進・抑制ホルモンによる調節 負のフィードバック 正のフィードバック 5回目：ホルモンによる調節の実際 ホルモンによる糖代謝の調節 ホルモンによるカルシウム代謝の調節 ストレスとホルモン 乳房の発達と乳汁分泌 高血圧をきたすホルモン 6回目：腎臓① 腎臓の構造と機能 糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能 傍糸球体装置 7回目：腎臓② クリアランスと糸球体濾過量 腎臓から分泌される生理活性物質 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿 8回目：体温とその調節 水の出納、脱水 電解質の異常、酸塩基平衡 9回目：皮膚の構造と機能 皮膚の組織構、皮膚の付属 皮膚の血管と神、皮膚の機能 10回目：生体の防御機能 非特異的防御機構 特異的防御機構－免疫 生体防御の関連臓器 11回目：体温とその調節 熱の出納、体温の分布と測定 体温調節、発熱 高体温と低体温 12回目：男性生殖器 精巣（睾丸） 精路（生殖路）と付属生殖腺 男性の外陰部 男性の生殖機能 13回目：女性生殖器 卵巣、卵管・子宮・膣 女性の外陰部と会陰、乳腺 女性の生殖機能 14回目：受精と胎児の発生 生殖細胞と受精、初期発生と着床 胎児と胎盤 成長と老化 小児期の成長、老化 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座 人体の構造と機能１「解剖生理学」　医学書院	図解ワンポイント 「生理学　人体の構造と機能」サイオ出版 解剖生理学ノート（第２版）

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	中間試験、単位認定試験の「総合評価」とする

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人体の構造と機能	生活行動とからだ	1	15	1	2	専任教員

科　目　目　標
人間の生活行動から、からだの仕組みを理解することができる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：何のための生活行動か （内部環境の恒常性、生命維持と生活行動） 2回目：動く （姿勢、神経から筋への指令と筋の収縮、骨格・骨格筋・関節） 3回目：食べる （食欲、食行動、咀嚼し味わう、飲み込む（嚥下）、消化と吸収、何をどれだけ食べるか） 4回目：息をする （息を吸う・息を吐く、ガス交換） 5回目：トイレに行く （排尿、排便） 6回目：眠る （人はなぜ眠くなるのか、からだのリズム、眠り、睡眠の主観的評価） 7回目：お風呂に入る （垢を落とす、皮膚と付属物、皮膚と粘膜、温まる） 8回目：まとめ（45分）	＊解剖生理学の知識を活用し主体的に学習できるように、それぞれの課題についてグループワークでの学習、発表を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「看護　形態機能学　生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版 系統看護学講座 人体の構造と機能1「解剖生理学」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	レポート グループワーク発表内容

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人体の構造と機能	生化学	1	30	1	1	院外講師

科　目　目　標
人間を身体的側面から理解するために、生命現象を分子レベルで捉え、生命科学の基本を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
１回目：人体の構成成分① 糖質・脂質 ２回目：人体の構成成分② タンパク質・核酸 ３回目：臓器の細胞の働きと栄養① 細胞の働き、消化管・消化酵素 ４回目：臓器の細胞の働きと栄養② 肝臓でのタンパク質合成・グリコーゲン合成 脂肪酸合成・コレステロール合成 ５回目：臓器の細胞の働きと栄養③ 脂肪組織、脳・骨・筋肉 ６回目：酵素・補酵素・ビタミン ７回目：糖質の代謝 解糖系・糖新生・グリコーゲン代謝 ８回目：脂質の代謝 脂質の分解・合成 ９回目：タンパク質・アミノ酸の代謝 タンパク質・アミノ酸の分解、アミノ酸の供給、 アミノ酸から生体成分の合成 10回目：核酸の代謝・遺伝情報の流れ 11回目：ホルモンと代謝調整 内分泌腺とホルモン、局所ホルモン、 ホルモンによる代謝異常 12回目：血液と免疫 13回目：電解質と尿 14回目：代謝異常と遺伝病 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「図解　よくわかる生化学」南山堂	「テロメア寿命をめざして」三重大学出版会

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人体の構造と機能	栄養学	1	15	1	2	院外講師

科　目　目　標
人間の生活活動に必要な栄養の意義、適切な栄養摂取、また健康の回復や治療としての食事療法の意義と方法を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
１回目：栄養学と看護 栄養とは、看護と栄養 NSTにおける看護師の役割 ２回目：栄養素の種類と働き 炭水化物、脂質、タンパク質 ３回目：食物の消化と栄養素の吸収・代謝、代謝薬物の排泄 ４回目：エネルギー代謝 体内エネルギー、エネルギー消費量、 基礎代謝、安静時代謝、活動代謝 栄養状態の評価と判定 ５回目：ライフステージと栄養① 乳幼児期における栄養 幼児期における栄養 学童期における栄養 青年期における栄養 ６回目：ライフステージと栄養② 妊娠期における栄養 授乳期における栄養 更年期における栄養 高齢期における栄養 介護予防 サルコペニアからフレイル予防 ７回目：臨床栄養と栄養補給、経腸栄養、経静脈栄養 8回目：試験（45分）	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座 人体の構造と機能３「栄養学」医学書院 「糖尿病食事療法のための食品交換表」文光堂	「テロメア寿命をめざして」三重大学出版会

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床薬理総論	1	15	1	1	院内講師

科　目　目　標
薬物療法を受ける患者の看護に必要となる基礎的知識について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：薬物と医薬品の定義 薬物療法の目的 薬理作用と作用機序 2回目：薬物動態と薬効 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄） 薬効（消失半減期） 副作用と有害作用（有害事象） 薬物相互作用 3回目：薬物療法に影響を与える因子 生体側の因子（個体差、耐性、疾患、年齢、 体重、人種、プラセボ効果） 薬物側の因子（与薬方法） コンプライアンス 4回目：薬物送達システム 中毒 新薬の開発 5回目：小児 妊婦 高齢者 6回目：医薬品と法規 薬機法 日本薬局方（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤等の取り扱い） 医薬品の安全な使用と管理 薬理効果に影響する要因（混合の可否、禁忌、 医薬品の有効期間、医薬品の保存・管理方法） 7回目：処方箋と調剤 医薬品と医療用具の取り扱い 医薬品添付文書 8回目：試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「わかりやすい薬理学」ヌーベルヒロカワ	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床薬理各論	1	30	1	2	院内講師

科　目　目　標
薬物療法を受ける患者への情報提供や服薬指導を行うために必要な疾患治療における薬物の特徴・作用機序・人体への影響について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：末梢神経作用薬① 自律神経作用薬（強心薬、昇圧薬） 2回目：末梢神経作用薬② 筋弛緩薬　2.局所麻酔薬 3回目：中枢神経作用薬① 全身麻酔薬　鎮痛解熱薬　麻薬性鎮痛薬　鎮静睡眠薬 4回目：中枢神経作用薬② 向精神薬　抗てんかん薬　抗パーキンソン病薬 アルツハイマー病治療薬　中枢神経興奮薬・弛緩薬 5回目：循環器系作用薬① 抗高血圧薬（降圧薬） 心臓作用薬（狭心症治療薬、抗不整脈薬） 6回目：循環器系作用薬② 腎臓作用薬（利尿薬） 血液・造血器系作用薬（抗血栓薬） 7回目：抗炎症薬① ステロイド性抗炎症薬（副腎皮質ステロイド薬） 非ステロイド性抗炎症薬（消炎鎮痛薬：NSAIDs） 8回目：抗炎症薬② 免疫関連薬（抗アレルギー薬） 9回目：呼吸器系作用薬 10回目：消化器系作用薬 消化性潰瘍治療薬 下剤、止痢薬 11回目：ホルモン系（糖尿病治療薬）・生殖器系作用薬 12回目:抗感染症薬 抗感染症薬 消毒薬 13回目：抗悪性腫瘍薬（抗癌薬、免疫療法薬） 14回目:漢方薬 15回目:まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「わかりやすい薬理学」ヌーベルヒロカワ	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	1	1	院内講師

科　目　目　標
病原微生物の分類・特徴・生体に及ぼす影響、消毒法や検査方法について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：ヒトと感染症 感染症とは、ヒトと感染症の歴史 2回目：感染・感染症の機構と種類、免疫と生体防御機構 感染の機構（しくみ、成立要因）、感染症の種類 感染症の現状 （新興感染症、再興感染症、流行、院内感染、薬剤耐性） 感染症の検査、感染症の検査・診断・治療の概要 免疫・生体防御の機構 医療における免疫の利用 移植・輸血と免疫 免疫病（免疫異常、アレルギー性疾患、接触皮膚炎） 3回目：感染症の予防と感染制御対策・技術 感染症の考え方（感染症予防の原則）、滅菌と消毒 予防接種、院内感染予防対策 法律による感染症対策（感染症法） 感染症の疫学と監視体制 4回目：細菌感染症① 細菌の形態・構造と分類、細菌の生活現象 細菌の遺伝と変異、細菌の病原性 5回目：細菌感染症② 細菌感染症の検査・診断、細菌感染症の治療の予防 6回目：主な病原細菌と疾患① 7回目：主な病原細菌と疾患② 8回目：主な病原細菌と疾患③ 9回目：主な病原細菌と疾患（結核）④ 10回目：主な病原細菌と疾患⑤ 11回目：主な病原細菌と疾患⑥ 12回目：ウイルス感染症① ウイルスの形態・構造と分類、ウイルスの感染と増殖 ウイルスの病原性、ウイルス感染症の検査・診断 13回目：ウイルス感染症② ウイルス感染症の治療と予防 主な病原ウイルスと疾患（HIV、AIDS、新型インフルエンザ） 14回目：真菌感染症、寄生虫感染症および衛生動物 真菌の形態と構造、真菌の生活現象と分類 真菌の病原性、真菌感染症の検査・診断 真菌感染症の治療、主な病原真菌と疾患 寄生虫とは、線虫類、吸虫類、条虫類、原虫類、衛生動物 15回目：まとめ・試験	

	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」南山堂	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学総論	1	30	1	1	院内講師

科　目　目　標
病因の発生機序を学び、疾患の本質を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：病気と病理学 病気とは何か（恒常性維持機構、自然治癒力、外因（環境要因）、 内因（宿主要因）、遺伝因子、回復に影響する因子） 病気の見方 2回目：老化と死 老化と寿命、老化、死（死の三徴候、死亡判定、脳死） 3回目：組織・細胞に生じる異常と修復 細胞、組織、臓器、細胞障害と形態変化 細胞増殖と分化、組織の損傷、修復 4回目：炎症① 炎症の外因と内因、急性炎症 5回目：炎症② 慢性炎症、サイトカイン 6回目：免疫とその異常 免疫とは何か（免疫系の細胞、抗原と抗体） 獲得免疫応答（補体、液性免疫、細胞性免疫） アレルギー反応 移植臓器、組織に対する免疫反応 7回目：止血と循環 循環系のしくみと異常 止血のしくみと異常（血液凝固、繊維素溶解） 微小循環、全身循環の異常、血栓、塞栓、梗塞 8回目：先天異常 先天異常とは、奇形、染色体異常、遺伝子異常 9回目：感染症① 主な病原体（ウイルス、細菌、真菌、原虫） 感染に対する生体防御　3.感染の成立（感染源と感染経路） 10回目：感染症② 代表的なウイルス・細菌と感染症 最近注目されている感染病原体 11回目：環境による疾患 生活環境と疾患、治療と疾患、食事と疾患 12回目：癌 腫瘍とは、腫瘍の発生・進展の仕組み、発癌性物質と変異原性 13回目：生活習慣病 動脈硬化、高血圧、糖尿病、肥満症 14回目：難病 難病とは、免疫不全、自己免疫疾患 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
新体系看護学全書3「病理学」メヂカルフレンド社	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと 回復の促進	疾病治療論	1	30	1	2	院外講師 院内講師

科　目　目　標
疾病治療に必要な検査・診断方法および放射線療法、リハビリテーション療法について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：放射線医学における診断① Ｘ線診断、ＭＲＩ 2回目：放射線医学における診断② 超音波検査、ＩＶＲ・血管造影 3回目：放射線治療と看護 放射線治療、放射線障害 4回目：リハビリテーション療法① リハビリテーション医学とは リハビリテーション療法の目的 リハビリテーション療法の種類と特徴 5回目：リハビリテーション療法② チームアプローチと社会資源の活用 患者の社会参加への支援 6回目：リハビリテーション療法③(理学療法) 徒手筋力テスト（MMT）、ＲＯＭ訓練 筋力増強訓練、関節可動域の測定 7回目：リハビリテーション療法④（言語聴覚療法） 8回目：リハビリテーション療法⑤（作業療法） ＡＤＬ、移乗 9回目：リハビリテーション療法⑥ リハビリテーション看護 10回目：臨床検査① 臨床検査総論、一般検査 11回目：臨床検査② 血液検査、免疫・血清検査 12回目：臨床検査③ 化学検査 13回目：臨床検査④ 生理機能検査① 14回目：臨床検査⑤ 生理機能検査② 15回目：まとめ・試験	演示： ＲＯＭ訓練、関節可動域の測定 演習： 徒手筋力テスト（MMT）、筋力増強訓練、移乗

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学10「運動器」 「臨床放射線医学」 「臨床検査」　医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	外科的治療論	1	15	2	1	院内講師

科　目　目　標
生命危機、急性期に必要な治療について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：外科患者のアセスメント 手術侵襲と生体の反応 侵襲に対する生体反応 （神経内分泌、免疫系、代謝系の反応） 2回目：救急処置法の実際 外傷処置 3回目：外科的治療の基礎 手術療法、外科的基本手技、 術後合併症とその予防、手術後の疼痛管理 4回目：輸液・輸血療法 5回目：体液・栄養管理 6回目：麻酔法① 麻酔とは 全身麻酔 7回目：麻酔法②、呼吸管理 局所麻酔 酸素療法と機械的人工換気 8回目：試験（45分）	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統別看護学講座　別巻「臨床外科看護総論」 医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域：専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと 回復の促進	病態生理学Ⅰ (呼吸器系・循環器系)	1	30	1	2	院内講師

科　目　目　標
呼吸器系、循環器系の疾患とその病因・病態・症状の特徴と検査治療について学び、看護実践における健康・疾病状態に関する観察力、判断力の根拠が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
Ⅰ．呼吸器の障害 1回目：症状とその病態生理 自覚症状：喀痰、血痰・喀血、咳嗽、胸痛、呼吸困難 他覚症状：チアノーゼ、ばち指、意識障害 2回目：検査 喀痰検査、胸水検査、画像診断、生検、呼吸機能検査、内視鏡検査 睡眠時呼吸モニタリング 3回目：治療・処置 吸入療法、酸素療法、人工呼吸療法、呼吸理学療法、気道確保、 胸腔ドレナージ、呼吸器外科の手術 Ⅱ．呼吸器系疾患の理解 4回目：感染症（かぜ、インフルエンザ） 炎症性疾患（気管支炎、間質性肺炎、肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症） 5回目：気道疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患（COPD））、呼吸不全 肺循環障害（肺高血圧、肺血栓肺塞栓症）、腫瘍（悪性腫瘍（肺癌 他）、 良性腫瘍 6回目：呼吸調節に関する疾患（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群） 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患（胸膜炎、気胸、胸膜中皮腫、横隔膜ヘルニア、吃逆） 肺移植、胸部外傷 Ⅲ．循環器の障害 7回目：症状とその病態生理 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、 ショック（心原性、出血性、血流分布異常性、心外閉塞・拘束性） 8回目：検査と治療 検査：心臓カテーテル、 治療：薬物療法、経皮的冠状動脈インターベンション、ペースメーカ 9回目：治療 冠状動脈バイパス術、弁置換術、大血管再建術、血栓除去術、大動脈バルーンパン ピング、経皮的心肺補助、補助人工心肺 Ⅳ．循環器系疾患の理解 10回目:血圧異常（動脈硬化症、本態性高血圧、二次高血圧、起立性低血圧、迷走神経反射） 血管系の疾患（大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、 高安動脈炎、挫滅(圧挫)症候群（crush　syndrome） 血栓性静脈炎・静脈血栓症、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、肺塞栓症、 上大静脈症候群） 11回目：先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、 Fallot（ファロー）四徴症） 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群）、 12回目：心筋疾患（肥大型心筋症、拡張型心筋症、心臓の腫瘍） 13回目：心不全（急性心不全、慢性心不全）、心タンポナーデ 不整脈（上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈） 14回目：炎症性疾患（感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎） 弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患） 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学 2「呼吸器」 成人看護学 3「循環器」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅱ （消化器系、代謝系・内分泌系）	1	30	1	2	院外講師 院内講師

科　目　目　標
消化器系、代謝系、内分泌系、免疫系、血液・リンパ系の疾患とその病因・病態・症状の特徴と検査治療について学び、看護実践における健康・疾病状態に関する観察力、判断力の根拠が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
Ⅰ．口腔の障害 1回目:症状とその病態生理：咀嚼障害・嚥下障害 検査と治療・処置:齲蝕の治療、歯周疾の治療、口腔外科外来治療、補綴治療疾患の理解:歯の異常と疾患（齲蝕および歯髄疾患）、歯周病、悪性腫瘍（舌癌、咽頭癌） Ⅱ．消化器の障害 2回目:症状とその病態生理 吐きけ・嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満、腹水、黄疸、意識障害（肝性脳症）、吃逆 3回目:検査と治療 検査：肝機能検査、肝生検、放射線検査、肝シンチグラフィー、 陽電子放射断層撮影（PET）内視鏡検査 治療：薬物療法、栄養療法・食事療法、手術療法、放射線療法 Ⅲ.消化器系の疾患の理解 4回目:上部消化管疾患 炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症） 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）、腫瘍（胃癌、食道癌)、食道静脈瘤 5回目:下部消化管疾患 排便障害（便秘、下痢）、炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、Crohn（クローン）病、虫垂炎、痔瘻）、イレウス、腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌）、慢性便秘症 6回目:肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 急性腹症、腹膜炎、門脈圧亢進症、炎症性疾患（肝炎、急性胆嚢炎、胆管炎、膵炎）、肝硬変、腫瘍（胆管癌、肝癌、胆嚢癌、膵癌）、肝不全、脂肪肝、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎、胆石症 7回目:ヘルニア（鼠径ヘルニア、横隔膜ヘルニア、腹壁瘢痕ヘル二ア）,乳癌 8回目:症状とその病態生理 体重変化・身長の異常、容貌の変化、神経・筋症状 9回目:検査 内分泌疾患の検査、代謝疾患の検査 Ⅴ.内分泌・代謝系疾患の理解 10回目:間脳・下垂体の疾患（視床下部－下垂体前葉系疾患、視床下部－下垂体後葉系疾患） 甲状腺疾患（機能亢進症、機能低下症、甲状腺炎、甲状腺腫瘍） 11回目:副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、多発性内分泌腫瘍症代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常ビタミン欠乏症） Ⅵ.免疫系の障害 12回目:症状とその病態・検査・治療 疾患の理解 アナフィラキシーショック 膠原病（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、シェーグレン症候群、皮膚筋炎、多発性筋炎、ベーチェット病） Ⅶ.血液・造血器・リンパ系の障害 13回目:症状・検査・治療 疾患の理解 赤血球系の異常（貧血：鉄欠乏性、巨赤芽球性、溶血性、二次性）、白血球系の異常（白血球減少症）、骨髄異型性症候群、 14回目: 造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫および類縁疾患）、出血性疾患（血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP)、播種性血管内症候群（DIC））、ヒト免疫不全ウイルス感染症、敗血症、ウイルスによる感染症（インフルエンザ、流行性耳下腺炎、麻疹、風疹、エボラ出血熱、コロナウイルス）細菌による感染症（結核、コレラ、破傷風、梅毒） 15回目:まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学 4「血液・造血器」 成人看護学 5「消化器」 成人看護学 6「内分泌・代謝」 成人看護学11「アレルギー・膠原病・感染症」 成人看護学15「歯・口腔」　医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと 回復の促進	病態生理学Ⅲ (脳神経系、骨・筋系)	1	30	1	2	院内講師

科　目　目　標
脳・神経系、骨・筋系の疾患とその病因・病態・症状の特徴と検査治療について学び、看護実践における健康・疾病状態に関する観察力判断力の根拠が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
Ⅰ．脳・神経の障害 1回目：症状とその病態生理 脳・神経障害とは、意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、 自律性のある機能の障害 2回目：頭蓋内圧亢進に伴う症状と脳ヘルニア、バイタルサインの変化、髄膜刺激症状、 頭痛 3回目：検査・診断と治療・処置 Ⅱ．脳・神経系の疾患の理解 4回目：中枢神経の疾患（脳血管障害（脳内出血、クモ膜下出血、脳梗塞、もやもや病）、 5回目：脳腫瘍、頭部外傷、脳脊髄液の異常）、脊髄疾患、 6回目：末梢神経障害（多発性ニューロパチー、糖尿病性ニューロパチー、 ギラン・バレー症候群、単ニューロパチー、顔面神経麻痺）、 7回目：筋疾患・神経筋接合部疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症、 筋萎縮性側索硬化症） 8回目：脱髄・変性疾患（多発性硬化症、パーキンソン病、 パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症）、 9回目：脳・神経系の感染症（脳炎、髄膜炎、クロイツフェルトーヤコブ病）、 てんかん Ⅲ．運動器の障害 10回目：症状とその病態生理 疼痛、形態の異常、関節運動の異常、神経の障害、異常歩行または跛行、 筋肉の障害 11回目：診断・検査と治療・処置 Ⅳ．運動器系の疾患の理解 12回目：外傷性（外因性）運動器疾患：骨折、脱臼、捻挫および打撲、 神経の損傷（脊髄損傷、末梢神経損傷）、筋・腱・靭帯などの損傷） 13回目：内因性（非外傷性）の運動器疾患：先天性疾患、 骨・関節の炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎、変形性関節症）、 骨腫瘍および軟部腫瘍（骨肉腫、軟部組織腫瘍）、代謝性骨疾患、筋および腱の疾患 14回目：神経の疾患、上肢および上肢帯の疾患、 脊椎の疾患（腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、骨粗鬆症）、 下肢および下肢帯の疾患 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学 7「脳・神経」 成人看護学10「運動器」　医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅳ （感覚器系、腎・泌尿器系、生殖器系）	1	30	1	2	院外講師 院内講師

科　目　目　標
感覚器系、腎・泌尿器系、生殖器系の疾患とその病因・病態・症状の特徴と検査治療について学び、看護実践における健康・疾病状態に関する観察力判断力の根拠が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
Ⅰ.感覚器系疾患 1回目：視覚の障害 症状とその病態生理 視機能に関連した症状 検査と治療 2回目：疾患の理解、機能の障害 部位別の疾患（白内障・緑内障・網膜剥離・網膜症） 3回目：聴覚・平衡感覚の障害 症状とその病態生理 耳にあらわれる症状と病態生理(難聴) メニエール病 検査と治療 4回目：視覚・平衡感覚の障害 症状とその病態生理 鼻にあらわれる症状と病態生理 （嗅覚障害、アレルギー性鼻炎） 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理（味覚障害、咽頭炎、扁桃炎） 検査と治療 5回目：皮膚の障害 症状とその病態生理 検査と治療 6回目：疾患の理解 湿疹、皮膚炎（アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、慢性光線過敏症皮膚炎）、蕁麻疹、薬疹、感染性疾患（蜂窩織炎、帯状疱疹、白癬、カンジダ症、疥癬）、腫瘍（色素性母斑、ケロイド、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫） 鶏眼＜うおのめ＞、胼胝＜たこ＞ Ⅱ．腎・泌尿器、男性生殖器の疾患 7回目：症状と病態生理 尿の異常、排尿に関連した症状 （過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症） 高血圧 水・電解質の異常 （浮腫・脱水・低ナトリウム血症、高カリウム血症） 酸・塩基平衡の障害 （アシドーシス、アルカローシス） 8回目：検査と治療・処置 9回目：疾患の理解 腎不全と慢性腎臓病、糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害、尿細管間質性腎炎、腎血管性病変、尿細管機能異常、妊娠高血圧症候群 尿路・性器の感染症（腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎）、 10回目：尿路の通過障害と機能障害、尿路損傷および異物、尿路結石症 尿路・性器の腫瘍（前立腺癌、精巣腫瘍、腎癌、尿管癌、膀胱癌） 発生・発育の異常（前立腺肥大） 男性不妊症、男性性機能障害、その他の男性生殖器疾患 Ⅲ．女性生殖器系の疾患 11回目：症状と病態生理 12回目：診察・検査と治療・処置 13回目：疾患の理解 性分化疾患 臓器別疾患 外陰、膣 子宮（子宮体癌、子宮頸癌、子宮筋腫、子宮内膜症） 14回目：疾患の理解 臓器別疾患 卵管 卵巣（卵巣の良性腫瘍、卵巣癌） 骨盤内炎症性疾患 乳房（乳癌、乳腺炎、乳腺症） 機能的疾患（月経異常、更年期障害） 感染症 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学 8「腎・泌尿器」 成人看護学 9「女性生殖器」 成人看護学12「皮膚」 成人看護学13「眼」 成人看護学14「耳鼻咽喉」　医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
健康支援と 社会保障制度	医療概論	1	15	1	2	院内講師 専任教員 院外講師

科　目　目　標
現代社会における医療の現状と役割、その課題を学び、医療のあり方が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：わが国の医療の変遷と医療観の移り変わり 2回目：現代社会における医療の現状 医療の新しい潮流 3回目：医療と看護の原点、命について考える① 生と死について 4回目：命について考える② 生について 5回目：命について考える③ 死について 6回目：医療の現状と課題① インフォームドコンセントと医療の情報開示、 救急医療、障害者のノーマライゼーション、 災害医療、医療安全、がんの予防と治療、 こころの健康と精神医療、地域包括医療システム 先端医療技術の成果と新たな課題等 7回目：医療の現状と課題② 8回目：医療の現状と課題③ まとめ	＊医療の現状と課題についてはグループワークを行い、発表する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
なし（講師の資料）	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	レポート グループワーク発表内容

領域：専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
健康支援と 社会保障制度	保健医療論Ⅰ	1	30	2	2	院外講師

科　目　目　標
保健統計から我が国の健康に関する現状を理解できる。 公衆衛生活動や健康・医療・福祉の関連について学び、人々の健康を保持・増進するために どのような働きかけがなされているのかを理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：公衆衛生の概念 健康と公衆衛生　　公衆衛生の歴史 2回目：人口と公衆衛生 人口の動向把握に必要な指標 人口動態と公衆衛生 3回目：疾病の疫学と予防 疾病の成立と予防 疫学調査 4回目：感染性疾患の疫学と予防 5回目：非感染性疾患の疫学と予防 6回目：食と公衆衛生 健康づくりと食　健康の維持と食品保健 7回目：環境と公衆衛生 人間と生活環境 8回目：健康問題と環境 環境問題の実態と改善への取り組み 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動・悪臭 ゴミ・廃棄物 9回目：国民の健康と保健統計 10回目：公衆衛生活動の実際①　地域保健 健康教育について 保健行政 11回目：公衆衛生活動の実際②　母子保健 12回目：公衆衛生活動の実際③　学校保健 13回目：公衆衛生活動の実際④　精神保健 14回目：公衆衛生活動の実際⑤ 産業保健　老人保健　がん対策 難病、障害者に関する対策 依存症対策（アルコール依存、薬物依存、病的賭博） 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「わかりやすい公衆衛生学」ヌーベルヒロカワ	国民衛生の動向

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域：専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
健康支援と 社会保障制度	保健医療論Ⅱ（政策医療）	1	15	2	2	院外講師 院内講師

科　目　目　標
国の医療政策と行われている看護を学び、政策医療を担う一員としての社会的使命について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：日本の医療の動向 国立病院・療養所の歴史と沿革 国立病院・療養所が日本の医療に果たした業績・役割 社会の変化と国立病院機構発足の経緯 2回目：政策医療とは 政策医療の範囲と概要 高度先駆的医療の概要 国立病院機構のネットワーク 3回目：神経・筋疾患患者の医療と看護の動向 医療の変遷と現状　　社会資源の活用と体制 難病対策のあゆみ　　難病対策の見直し 個別の特定疾患対策 4回目：重症心身障害児（者）の医療と看護の動向 重症心身障害児（者）の医療の変遷と現状 障害児・者対策 障害者基本計画、新障害者プラン 障害者自立支援法 日常生活の自立に向けた援助の実際 5回目：精神科医療と看護の動向 精神・神経疾患対策の実態について 6回目：医療観察法病棟の看護の実際 7回目：HIV（ヒト免疫不全ウイルス）/ AIDS（後天性免疫不全症候群）患者の看護 8回目：試験（45分）	

テキスト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
なし（講義の資料）	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
健康支援と 社会保障制度	社会福祉	2	30	3	1	院内講師

科　目　目　標
社会福祉・社会保障の仕組みと援助の方法を学び、看護実践に活かす基礎的知識が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：社会保障・社会福祉の考え方と原理 2回目：社会保障・社会福祉の歴史 世界の動き、わが国の動き 権利としての社会福祉の歩み 3回目：現代社会と社会福祉・社会保障の動向 人口、家族、地域、社会経済状況の変化 保健・医療・福祉サービスの動向・変遷 4回目：社会福祉に関する法や施策① 生活保護に関する法や施策 障害者に関する法や施策 5回目：社会福祉に関する法や施策② 児童に関する法や施策 高齢者に関する法や施策 6回目：社会福祉に関わる機関と機能① 福祉事務所　　児童相談所 7回目:社会福祉に関わる機関と機能② 更正相談所　　社会福祉協議会 8回目:社会福祉に関わる機関と機能 社会福祉施設　在宅サービスの実施機関 9回目:社会保険制度① 医療保障制度の体系と仕組み 10回目:社会保障制度② 保険年金制度 その他の社会保険（診療報酬制度を含む） 11回目:地域福祉 12回目:社会福祉援助と専門職①　　社会福祉援助の体系 13回目:社会福祉援助と専門職②　　社会福祉援助の実際 14回目:社会福祉援助と専門職③　　社会福祉援助と専門職 15回目:まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③「社会福祉と社会保障」 メディカ出版	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
健康支援と 社会保障制度	関係法規	1	15	3	1	院内講師 専任教員

科　目　目　標
医療職の職務を規定する法律や労働・保健に関する法律について理解できる。 医療従事者として看護師の業務と責任範囲が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：法の概念・法の分類 法の概念、法の分類、 衛生法、厚生行政の仕組み 2回目：医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 保健師助産師看護師法① 目的・定義、構造と附属法令、免許、業務、研修、義務 3回目：保健師助産師看護師法② 試験、学校・養成所、医療過誤、罰則、沿革 看護職と関係法規 看護師等の人材確保の促進に関する法律 特定行為研修に関する省令 4回目：医療関係法規 医療法、医師法、歯科医師法、薬剤師法、診療放射線技師法、 臨床検査技師等に関する法律、 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法、 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法、 栄養士法 5回目：社会保険法の費用保障（診療報酬制度を含む） 6回目：看護職と関係法規 労働基準法、労働安全衛生法、育児休業、 介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する 法律 7回目：環境基本法、公害防止の法律 8回目：試験（45分）	＊初めて聞く用語が多いため、事前にテキストを一読し、受講する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度4「看護関係法令」 医学書院	「私たちの拠りどころ保健師助産師 看護師法」　看護協会出版会

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験